

キャリアコン論述試験の平均点や得点幅は

平均点は、両団体とも33点～35点くらいになることが多いです。

暗記していないと書けないという試験ではないし、深い理解も必要ないので、難易度は易しいと感じています。受験生の得点幅は、TADAJUKUのサンプルからになりますが、25点～45点くらいですね。

過去私が知っている最高得点は48点です！

実技試験は「論述+面接」の合計90点以上で合格となるので、論述で40点以上確保できると面接は気持ち的にラクになりますね。

キャリアコン論述試験解答作成時の注意点は

まずは指定されている解答行数の意味を考えてみる

解答用紙の行数はあんまり意味ないと考えている人は多いけど、作問者側は逆算思考で問題をつくります。

そもそもこれくらいの解答をして欲しいってあるんですよ。

私も専門学校講師としてヤマほど問題を作ってきたときに、常に解答をイメージしていました。

仮に5行指定されているということは、当たり前ですが5行で解答してねってことです。通常は5行にあわせて解答を作成することになります。

もしあなたが3行しか解答しないのであれば、何か足りないってことです。それだけで点数を落としてしまいます。

1行あたりの書く文字数は

通常A4用紙ワードで解答を作成するときには、1行あたりに書く文字数標準は40文字程度です。

もちろん、ワード形式によって違いますが。

なので、受験としても1行に40文字程度は書きましょう。私は50文字程度を推奨しています。

読みやすくするために、ひらがな小さめ、漢字は大きめで。

キャリアコン実技論述試験で35点以上を死守するための対策、勉強法

過去問を使って、設問に対する型を決めておく

キャリアコン論述試験は、設問が変わりません。なので、設問に対してどう答えるのか。的確に答えるためのフレームみたいなものを用意しておいて、あとは逐語内容を当てはめていくような感じで解答作成するのがいいですね。

たとえば、キャリアコンサルタントみたクライアントの問題点を答える時には、「根拠（どこからそう思ったのか）+問題点指摘」というフレームで解答作成する感じです。

「○○○」という発言から、自己理解が不足している

「○○○」という点から、中長期的視点がやや欠けている など

根拠づけをしっかりと書けていると点数はアップしやすいです。その根拠が弱かったり、逐語内容に即していないと感じると点数は伸びにくいです。

キーワードやフレーズを盛り込む

採点する側になったらわかるのですが、キーワードをしっかりと使って書いていないと点数をつけにくいんですよ。なので、練習時から使うキーワードやフレーズをしっかりと準備してそれを回答に反映させるようにしましょう！

私は過去公認会計士講座で、受験生の論述試験を数万枚採点してきましたが、キーワード、専門用語を使って解答できていないと、点数をあげにくいんですよ。

そもそも、数名の講師で採点をするときには「採点基準」をつくります。

キャリアコンサルタント論述試験がどういう風に採点されているかわかりませんが、もし複数人で採点しているのであれば、こういう内容（キーワード、フレーズ）には5点とか、採点者同士でブレがでないように細かく採点基準をつくって共有する可能性が高いです。

こういった背景があるからこそ、キーワードを大事にしなければいけないということです。

採点基準に従って採点しても、100点満点の試験だとおおよそA講師とB講師とは平均点で5点位の差があるのですよね。このあたりは採点甘めの人に当たることを願うしかありません。

設問ごとのつながりを意識した解答を！

高得点を目指すなら、各設問ごとの自分の回答について、統一感、つながりを意識すべき。各設問は別個独立ではなくて、連動しています。全体としてどうキャリアコンサルタントして支援を考えているのかがわかるような回答を作成できれば高得点をとれます！

たとえば「CCからみたCLの問題点として自己効力感が低い」と解答したとします。

であれば、具体的方策（今後の対応）について、自己効力感をあげるためにどんな支援をやっていきたいのかを書く必要があります。

各設問間のつながりも意識して練習をしていきましょう！

論述試験対策は絶対に書く練習を疎かにしないこと

いろいろ書いてきましたが、論述試験対策で何より大事なことは「時間をはかって書く」ということです。

少なくとも、過去問3回ぶんを2回ずつですね。

2回めは必ず5分間時間を短縮して、きっちりと時間内に書き上げる訓練をしましょう。

本番できれいに書かなければいけないと気負いすぎると、いつもより時間がかかってしまいます。

時間切れが一番最悪です。

とにかく「時間をはかって書く」ことを6回はやりましょう！

【解答例ポイント】2つの実施団体実技論述試験対策、過去問攻略法

キャリアコンサルティング協議会（CCC）の論述試験対策

まずは、キャリアコンサルティング協議会の論述試験対策について、解答例ポイントを書いておきますね。

【CCC 論述解答例ポイント】

設問1：空欄Aのすぐ直前のCLの発言を伝え返す。感情ワード、CLの状況、考えを端的に要約すること

設問2：CC視点でのCLの問題点を指摘する場合は、おおよそ次の観点を意識する

- 自己理解不足
- 仕事理解不足
- 情報収集不足
- コミュニケーション不足
- 中長期的な視野の不足
- 自己効力感の低下
- 思い込み など

設問3：逐語録からCLの最も訴えたいこと（CLの問題点）と、設問2で述べたCC視点でのCLの問題点の指摘をふまえて、今後どのような関わりをしていきたいか。具体的な方策を解答する。

- ジョブカードを使って棚卸しする
- 労働市場、雇用情勢、求人情報など、就職（転職）活動をおこなううえで必要な情報を一緒に集める
- ライフキャリアシート、ライフプランニングシートなどを使って経済面も含め、中長期的な視点に立って考えてもらう など

さらに「過去問第9回」を参考にしながら、論述の書き方について詳細に解説しましたので、ご確認くださいね。

日本キャリア開発協会（JCDA）の論述試験対策

次に、JCDAの論述試験対策について、過去問第9回を参考にしながら解答例ポイントを書いておきますね。

【JCDA 論述解答例ポイント】

設問1：指定されたキーワードを使いながら、ふさわしい対応とふさわしくない対応を比べてその違いを述べる。JCDAは「経験」「自己探索」「自己概念の成長」を大事にしており、押し付け、問題解決を急ぐことを嫌います。このあたりの基本的理解を前提に解答作成できるように！

ちなみに過去に指定されたキーワード出題ベスト3は下記のとおり。

第1位：経験、自己探索（6回）

第2位：問題解決、ものの見方（ともに4回）

第3位：自己概念、価値観、主訴、共感、背景（ともに3回）

※ 全部のキーワードを掲載することは控えておきます（第12回まで累計）

設問2：逐語記録でCCの対応がふさわしいかふさわしくないかを理由とともに端的に述べる。こちらも、押し付け、決めつけ、問題解決、自己探索、経験の再現、意味の出現あたりがキーワードになってきます。

設問3：キャリア協会と同じですね。CC視点でのCLの問題点を指摘する場合は、おおよそ次の観点を意識する

- 自己理解不足
- 仕事理解不足
- 情報収集不足
- コミュニケーション不足
- 中長期的な視野の不足
- 自己効力感の低下
- 思い込み など

設問4：今後具体的にどのようなやりとりで展開するかを解答。これも、キャリア協会と同じですが、具体的なやりとりと聞かれているので「会話形式」で答えるのも1つの方法になります。

さらに「過去問第9回」を参考にしながら、論述の書き方について詳細に解説しましたので、ご確認くださいね。

以上、国家資格キャリアコンサルタント実技論述試験対策、勉強法について解説してきました。実技試験は論述と面接をあわせて90点以上になりますので、1点でも多く論述で稼げるようにしっかり準備をやっていきましょう。

国家資格キャリアコンサルティング協議会】実技論述模範解答の道筋を解説

論述試験は試験実施団体である、キャリアコンサルティング協議会から正式な解答は公表されません。

ということは、実際に受験生がどのような解答を作成して、実際にどれくらいの点数だったのかのサンプルを集めて、分析することが重要となります。

幸いTADAJUKUでは、多くの方にご協力頂き、高得点を取るためのポイントを把握することができています。そのあたりの考え方を、お伝えしていきますね。

これから論述解答例ポイントを解説していくにあたり、ベースになっているのは過去受験生の「再現答案+実際の点数」に基づくものです。無料サイトなので、すべて公開することはできませんが、ぜひ参考にしてくださいね。

キャリア協会論述試験の概要、時間配分など

キャリア協会論述は解答行数がたったの15行しかないので、焦らずに解答しましょう。

配点と共に確認しておきます。

問1 (10点): 2行

問2 (10点): 4行

問3 (30点)

(1) 各1行ずつ

(2) 7行

※ 第1回実施時点による (今後変更可能性あり)

時間配分

まずいつもと同じ設問かどうか確かめる。

そのあと、ざっと事例記録を確認。再度事例記録をマークしながらじっくり確認。

ここまでに10分もかからないと思います。

設問1は4~5分以内。

設問1終了時点で、必ず15分以内に終わらせておきたいですね。この時点で残り35分。

設問2で約10分。

設問3 (1) 1つめと (2) を連動させて考えて解答作成する。これで約20分弱かけても構いません。

設問3 (1) は2つ提案をしなければいけません。できるだけ、同じような提案にならないようにしましょう。少し違った視点、角度からの提案を考えることになります。1つはすぐに思いつくはずなので、それを1つめに書いて、(2) で具体的な働きかけを書いていきましょう！ そのあと、残っている時間で(1) 2つめの提案を埋めるといいですね。

解答ボリューム、配点からしてもあきらかに問3を重視すべきです。

問3の内訳は示されていませんが、予想では(1) が5点ずつで10点。(2) が20点といった感じでしょうか。

点数配分が高いところに時間をかえるのが鉄則！設問2までをサクサクと終わらせてしまい、残った時間をすべて使って設問3を納得いく解答に仕上げてください！

過去問第9回論述試験を参考に問1を考えてみます

概要

著作権の関係上、過去問を掲載することはできません。各自で過去問を見ながら確認のほどお願いします

【事例記録】 学生就活

- CLは小さい頃から電車運転士に憧れ
- 高校卒業時の学校推薦枠の選考バツ⇒鉄道会社を目指せる専門学校へ
- 大手鉄道会社数社の採用試験不採用

幼少期から憧れ続けてきた電車の運転士になるために、企業研究もエントリーシートも頑張ってきたのに就活がうまくいかない学生さんの相談です。

結果が伴わず、落ち込んでいる学生さんに対してインテーク面談でどんな関わりが必要でしょうか。

ここからは模範解答、解答テクニックとは関係なく考えてみようと思います。

受容、励ましの重要性

まず、クライアントは自分がどれだけ運転士になりたいと思っているか、ここまでかなり頑張ってきたことに対してキャリアコンサルタントに理解をしてもらいたいと思っています。

インテーク面談で大事なことは、関係構築ですよ。

まずはクライアントの訴えをすべて受け止めることが大事

さらに、今回の事例であれば、かなり落ち込んでいる様子も伺えるので、小さな励ましの関わり合いができると、なお良いかと思います。

あまり初対面の人に大袈裟な対応は、逆効果になりやすいです。さらっと励ましてあげましょう。

どんな関わりあいをしてあげたいですか？

励ましの上手なキャリアコンさんであれば、この相談をうけてすぐに「すごく頑張ってこられたんですね」と励まし、賞賛から入るでしょう。

さらに、感情反映を重視する人であれば、「すごく頑張ってこられたんですね。ずっと思い続けてきた夢なので、上手くいかなくてショックで不安も大きいんですね」といったように、気持ちにスッと入り込む対応をするかと思います。

出だしでCLの言っていない言葉を使うことはダメなのか？

ただ、上記後者の対応は、まだクライアント自身から「ショック」「不安」という言葉は言ってません。これがダメなのか？

正直、まったく問題ありません。

特に今回の事例であれば、強い想いを持ち続けていること、努力もしてきたことを考えると、確実にショックを受けているとわかりますので、こういうケースではすぐに感情反映すべきだとも言えます。

ただ、言葉選びが上手な人。感度が高い人でないと、ケースによってはいきなり言い換えたり感情の明確化をすると、いきなり「違います」と言われかねないですよ。

なので、ダメではないのですが、リスクはあるということです。

空欄AのあとのCLの反応は？

試験では、CCの関わり合いに対して、CLがどんな反応を示したのかが決まっています。

今回、CLは運転士になりたかった理由を「小さいころから電車が好き」と理由を少し追加したことと、どうしても鉄道会社に入りたかったので就職に有利な専門学校を選んだことを強調しています。

ということは、CCはこのあたりの回答に繋がるような関わり合いをした可能性が高いということです。

空欄Aの手前CL1では、専門学校のことは発言していません。CCが先手をとって専門学校というキーワードを盛り込んだかもしれないですね。

個人的にはこんなかかわり合いもありかなと

模範解答ではありません！ご注意ください。

「運転士になる夢を実現するために就職に有利な専門学校も選んで就職活動もすごく頑張ってこられたんですね。ずっと思い続けてきた夢なので、上手くいかなくてショックで不安も大きいんですね」

無難に試験対応だけを考えると、問1はリスクを取らずに「伝え返し」で対応してくださいね。

【論述試験問2】キャリアコンサルタント視点の相談者の問題点指摘

キャリアコンサルタント試験【実技】対策ヒント集

2019.04.162019.07.19

キャリアコンサルタント試験では、相談者の問題点把握（いわゆる主訴、CLの訴えたいこと）と共に、相談を聴く専門家としてキャリアコンサルタントからみたクライアントの問題点把握（いわゆる課題、不足、欠点など）が重要となります。

国家資格キャリアコンサルタント試験では、キャリアコンサルティング協会では問2、JCDAでは問3で問われます。

昨日に引き続きキャリ協会実技論述過去問第9回を利用しながら解説していきます。

（第9回概要、問1解答作成の注意点などはこちら）

本記事の内容（目次） [\[開く\]](#)

スポンサーリンク

システムティックアプローチで大事なこと

キャリアコンサルティングを学ばれた方であれば誰も知っている「システムティックアプローチ」。簡単にいうとこんな流れになります。

信頼関係構築につとめる（リレーション、ラポール形成）

↓

- クライアントの問題点把握（主訴、今日の相談で最も訴えたいこと）
- キャリアコンサルタントからみたクライアントの問題点把握

↓

目標設定、目標共有

↓

具体的方策

↓

面談振り返り

上記、緑で示した部分は、実技面接評価区分でも「自己評価」「主訴・問題点の把握」という項目で重要視されていることがわかります。

評価区分についての記事はこちらでご確認ください。

キャリアコンサルタント視点の相談者の問題点とは

面接ロープレ、逐語記録を読んで、あなたが考えるクライアントの問題を述べるということですが、いったいこれは何を求められているのでしょうか。

簡単に言うと、クライアントが今抱えている悩みや不安は、どこかに原因があるはず。

だから、対人支援の専門家としてクライアントのどこに問題（課題、不足、欠点など）があるか広い視野で答えなさいということです。

これはこれで大事なことだけど、個人的にはイマイチ感もありますね。

というのは、悪い言い方をすれば、欠点探しということになるからです。

自己理解不足、仕事理解不足、思い込みなどなど、ありとあらゆる観点から、ここに問題点があるから今の悩みに繋がっている。この問題点を紐解いていけば、問題が解決する。ってなりますよね。

対人支援の黄金のフロー

相談者の抱えている悩み、不安

↓

どこかに原因があるはず

↓

この原因をしっかりと捉えて認知の変化、行動変容を促す

↓

問題解決、悩みを軽減できる

もちろん、私もすごく大事にしていますが、一方では「原因把握はそんなに重要なことなの？」と思う部分もあります。

私たちは過去も大事だけど、イマを生きています。

これから未来に向かって行動をしていく中で、過去の原因から何か気づきがなければ変わっていけないのでしょうか。

また、別途記事を書きますが、対人支援方法はこれだけではないということです。

未来のなりたい自分の姿

↓

いま何ができそうか。

例外的にうまく出来たことはどんなことか。

シンプルにこれだけでもいいのです。

過去の原因に目を向けさせすぎること、そこに囚われてしまう可能性もあることに留意しておきましょう。

「原因論」に基づく支援方法に疑問を投げかけているプロのコウンセラーも沢山いることは知っておいてもらえれば。

ここまでは試験とは関係がありません

本題まで長くなりました。キャリア協会実技論述過去問第9回を利用して、CC視点でのCLも問題点について考えていきましょう。

キャリアコンサルタント視点の相談者の問題点指摘

第9回逐語詳細は、各自で過去問をご確認くださいね。ざっくりですがこんな感じですね。

幼少期から電車運転士になるのが夢で鉄道会社へ就職有利な専門学校に入学。企業研究、エントリーシートも頑張ったけど不採用。不真面目なクラスメートが内々定。落ち込みやる気ダウン。親からも「どこでもいいから就職しろ」って怒られた。秋採用、2次募集とかも採用数少ないと思うと、自信もない。他の業界も考えたほうがいいかなど。

「事実」は受け止めることが大事

まず現状は、大手鉄道会社の採用試験を数社受けたが、結果に結びついていないということ。

クラスメートは内々定をもらった。

ものごとの捉え方や価値観が入る部分は、ひとまず切り分けましょう。

相談者の気持ち、考え、価値観、捉え方

起きている出来事、事実は同じだとしても、それに対してどういった気持ちになるのか。そのことに対してどう考えるのか。何を大事にして選択決断、行動していきたいのかは、相談者によって違います。

この部分を重要視することが大事です。

- 自分では頑張ってきた
- もう無理かな
- 想いを面接で十分伝えたつもり
- 不真面目なクラスメート
- 採用数は少ないと思うし
- 他の業界も受けたほうがいいのかな

あなたが考える課題、不足、欠点はどこ？

試験とかキーワードとか無視したとしてあなたはどう思いますか？

- 自分なりに努力して頑張ってきたということですが、面接で伝え方が悪かったのでは？
- クラスメートが内々定をもらったことで、少しの期間落ち込んでやる気を失ってしまうのは仕方がないとしても、それを引きずってしまうのは良くないのではないかと？ その結果を受けて、自分に何ができるのか前向きに積極的に考える思考と行動力が不足しているのでは？
- 親から怒られたことで自分の夢をあきらめて違う業界にいったほうがいいのではないかと短絡的思考になってしまっているのではないかと？ 自分の気持ちが揺らいでしまっているのでは？

- 2次募集も採用人数が少ないし、自信もなくなってきたから他の業界も受けたほうがいいのかなどという消極的スタンスで選択しようとしているのでは？ など

こういったことを考えたりするのですが、これをそのまま解答に書くわけにはいかないので、いわゆる「自己理解不足」「自己効力感低下」「主体性に欠ける」などのキーワードを使いながら、もっと無難に解答作成をしてくださいね。

よく使うキーワードはこちら。

- 自己理解不足
- 仕事理解不足
- 自己効力感が低い
- 情報収集不足
- 思い込みがある
- 中長期的な視野に欠ける など

個人的には、今回の事例だと「仕事理解不足」はあんまり書かなくていいと思います。もちろん、秋採用、2次募集があると思うけど採用数は少ないと思うという発言から、情報収集不足による仕事理解不足は書くことはできますが、クライアントはかなり業界、仕事内容については詳しいと想定できるので。

私だったらどんな支援をしたいか？

私だったら「他の業界も視野に入れたほうがいいのか？」という発言が一番引っかけられますね。幼少期からずっと憧れ続けてきた夢を、数社落ちたくらいで本当にあきらめていいのか。

ここをもっともっと時間をかけながら話を聴いてあげて、再度前向きに取り組んでもらえるようにして、そこからより具体的に面接対策、アピールポイントの整理の支援をしたいと。

もちろん、無理矢理ではなく。

なので、通常解答に反映させるであろう、価値観、興味、強みなどを棚卸しなんて不要だと思っているくらいです。

こういう点で、試験対策として割り切らざると得ないと考えています。

国家資格キャリアコンサルタント試験、キャリアコンサルティング協議会（キャリア協会）独特の出題である、事例展開していくための「提案」記述。

設問2でキャリアコンサルタントとして相談者の問題を把握しているからこそ、その問題に対してどう向き合ってもらえるのか。

設問1、2のヒントについてはこちらの記事をご確認ください。

問題解決に向けてどんな提案ができるのか。

提案の要点を文章の流れを意識して2つ埋めなければいけません。

どんなことに注意して解答作成すべきなのか解説していきます。

本記事の内容（目次） [\[開く\]](#)

提案を重視していることがあきらか

まず、解答作成の前にキャリア協会の論述試験逐語や設問からすれば、キャリアコンサルタントは必要に応じて積極的に提案を求められていることがわかります。

「こんなことをしてみるのはいかがでしょうか」

「○○ということについて考えてみるのはいかがでしょうか」

など、キャリアコンサルタントは相談者が抱えている問題に対して、解決方法（その糸口）の選択肢を何個か持っていてそれを提案してみることが要求されるということですね。

提案の要点は2つ記述しなければいけない

ここで2つ記述しなければいけないのは、提案が1つしか思いつかないのであれば、もし相談者がそれはやりたくないと言えば、展開できなくなってしまうんですね。

ということは、少なくとも切り口が異なった提案を2つくらいはできるようにしてねということだと思います。

2つの提案は、できるだけ切り口の異なったものを書くようにしましょう！

システムティックアプローチの視点からすれば

システムティックアプローチからすれば、通常は「目標共有」をしてから方策提案をしていくことになります。

逐語録の流れ、設問3（2）のことを考えると、（1）の提案は目標共有に近い提案を求められている可能性があります。

大きな方向性を定めていきたいといった感じです。

そう考えた場合は、設問3（1）は少し大きめの目標、方向性を提案する感じで解答しておいて、より具体的な関わり方は、設問3（2）で書いていくことになります。

ただどうしても、解答作成を考えると、目標共有と方策提案は混ざり合ってしまうし、そこまで神経質にならなくてもいいかなと。

実技面接においても「提案」はしてもOK？

このように、キャリア協会においては論述逐語において、提案することを求められています。しかも逐語のやり取り回数だけで判断すると、10分もたっていない段階です。

ということは、面接ロープレでも押し付けはいけません「提案」することに尻込みすることはありませんので。

ただ、論述は紙面上の兼ね合いもあります。面接のときもどんどん積極的に提案をしてもOK！と考えるのはリスクがあるのでご注意を。

キャリアコンサルタントとしてどのような提案が妥当？

では、キャリア協会論述試験過去問第9回を利用してみていきましょう。

幼少期から電車運転士になるのが夢で鉄道会社へ就職有利な専門学校に入学。企業研究、エントリーシートも頑張ったけど不採用。不真面目なクラスメートが内々定。落ち込みやる気ダウン。親からも「どこでもいいから就職しろ」って怒られた。秋採用、2次募集とかも採用数少ないと思うと、自信もない。他の業界も考えたほうがいいかなと。

提案の手前では、キャリアコンサルタントとして下記のように整理しています。

- 鉄道会社への想いもある
- 自信はない
- 他の業界も視野に入れたほうがいいかもとの想いもある

つまりは、今後就職活動を進めていく上でどう考えて、どう動いていけばいいのか悩んでいるので、まずはそれを整理していくことが大事ではないかと。

そのうえで、「○○について考えてみるのはどうか」と提案しています。

まずは無難な提案を

本問においては、相談者は就職の方向性で気持ちが揺らいでいます。

そうした相談者に対してキャリアコンサルタントはどんな提案をできるのでしょうか。

一番無難な提案は、振り返りでしょうね。

何か迷いが生じた時は、過去の自分を見つめ直してみる。これは基本中の基本なので。

- 再度鉄道に対する想いを振り返ってもらう

- 他の業界も含めて興味、適性、強みなど考えてもらう

まず、流れからしてもこのあたりを1つめの提案として解答するのがいいでしょう。

違った切り口での提案をもう1つ

ここが結構難しいですよ。

テクニク的には、1つはすぐに思いつくはずなのでそれをすぐに1つめに書いて(2)で具体的な働きかけを書いていきましょう！ そのあと、残っている時間で(1)2つめの提案を最後の最後に埋めるといいですね。何でもいいかと思いますが、文章の流れにあわせないといけないので厄介です。

たとえば、1つめは過去を振り返ってもらう提案を書いているので、逆に未来から考えてもらうことや、もっとより具体的に就活戦略(エントリーシート対策、面接対策)などについて考えてもらうこともできそうですね。ここで、ウンウンと悩んでしまうと(2)の時間がなくなってしまうので、最後にまわすことをおすすめします

国家資格キャリアコンサルタント試験、キャリアコンサルティング協議会(キャリア協会)のラスト問題設問3(2)についてです。

ここまで設問1、2、3(1)まで順を追って確認してきましたが、ここまでの内容を考慮して解答作成をするように心がけましょう。

設問1、2、3(1)の解説についてはこちら。

解答行数も多く、配点も一番大きいので、書き漏れがないように丁寧にしっかり書ききることが大切です。

本記事の内容(目次) [\[開く\]](#)

論述試験設問3(2)を答える上での大前提

何度もお伝えしてきていますが、キャリア協会の基本はシステムティックアプローチです。

信頼関係構築につとめる(リレーション、ラポール形成)

↓

- クライアントの問題点把握(主訴、今日の相談で最も訴えたいこと)
- キャリアコンサルタントからみたクライアントの問題点把握

↓

目標設定、目標共有

↓

具体的方策(設問3(2)はココ！)

↓

面談振り返り

国家資格キャリアコンサルタント試験では、相談者の問題点(主訴)を解答させる設問はありませんが、キャリアコン技能士2級では解答しなければいけません。

当然ですが、キャリアコンサルティングは相談者がもっとも相談したいことがあります。問われていないからといって無視することは絶対にありません。

よって、「相談者の問題点」と「キャリアコンサルタントからみた相談者の問題点(設問2)」をしっかりと反映させながら、最終的な目標を決めて具体的な関わり合いを考えていくことになります。

本問における目標設定は？

普通に考えれば、面談を終わった時点で、クライアントさんが今後の就職活動を迷いなく進めていけるようにな

ることですよね。

ただ、目標設定は狭めにとらえるか、広めに捉えるのかによって若干異なってきます。

狭い場合（短期）：採用につながるエントリーシートの書き方、面接対策

広い場合（中長期）：将来的にどんな働き方をしていきたいのかを考える

設問として、ダイレクトに目標設定を問われていないのですが、自身のなかでこの面談においての目標はどこにあるのか。

これを想定しながら、提案、今後の具体的な関わりを考えてみてくださいね。

CCが提案したことに対して、今後CLに対してどのような「働きかけ」をおこなうか。具体的に解答しなさいとのこと。大事なことはどこに目標をおいて面談を進めているか。今の課題、問題に対して具体的に関わってあげること、その目標を達成できるかどうか。

設問3（1）に対する提案後、具体的にどんな関わり合いをするか？

今回の事例だと、今後の就職活動を自信をもって主体的に迷いなくやっていくために、再度鉄道に対する想いを見つめなおすことと並行して、他の業界も含めてZさんの興味、適性、強みを振り返ってもらう提案が無難だと思います。

試験と関係ないのであれば、ここまで鉄道会社への想いが強い学生に対して、すぐに他の業界も踏まえての振り返りはまず提案しません。本当に他の業界への就職でいいのかどうか。後悔しないのか。私であれば、こういったことにトコトン向き合ってもらったうえでしか、他の業界も視野に入れることはないですね。

具体的な働きかけ

設問3（2）が具体的を要求されているので、ツールも含めてどう振り返りをしてもらうのか示さなければいけません。

- 幼少期からの運転士の夢を語ってもらう
- 親の意見とか関係なければ本当はどうしたいのか考えてもらう
- 諦めてしまうことに対する後悔はないのか寄り添いながら聴いてみる
- 鉄道業界の知識や熱い想いなど自分のアピールポイントを書き出してもらうことで自己効力感をあげる

など（※模範解答ではありません）

他の業界も視野に入れるとなると、他の業界の情報収集、OBへのインタビュー、必要であれば職業興味検査の実施も検討することになりますね。

さらに、エントリーシートの書類添削、面接指導も。

点数をコツコツ拾い上げること

設問3（2）は行数が多いので、やはり考えられる働きかけはすべて示していきましょう。

1つの働きかけについて深く掘り下げて書くよりも、最低でも5、6個の働きかけについて、具体的に書いたほうが点数は伸びると思います。

考えられる方策をわかりやすく解答に反映できるように練習をしましょう。

1点でも2点でも積み上げる意識が重要です！

私自身は箇条書きを進めることはしていませんが、文章力に自信がなくまとめ切ること不安がある人は、1つひとつの方策に番号をふるのも特に問題はありませんので。